

商業（原価計算）

履修単位	3単位	学年	2年	学科	商業科	コース	簿記コース	区分	必修・ 選択
------	-----	----	----	----	-----	-----	-------	----	--

1 学習内容と学習目標

製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得し、原価の概念について理解するとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身に付ける。

2 教材等

教科書：原価計算 新訂版（東京法令出版）
 補助教材：完全段階式標準検定簿記問題集 全商1級原価計算（東京法令出版）
 全商簿記実務検定模擬試験問題集1級原価計算（実教出版）

3 年間学習計画

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考査 範囲
一 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 第2章 製造業における簿記の 特色としくみ	4	○工業簿記の意味と特色、原価計算との結びつきについて理解する。 ○外部活動と内部活動について学習し、工業簿記は主として内部活動を記帳していくことについて理解する。 ○原価の3要素および直接費・間接費の分類を理解する。	中 間 考 査
	第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 第3章 経費の計算と記帳	5	○材料消費単価の予定価格法の意義について理解し、計算方法・記帳方法を習得する。 ○予定賃率を用いた場合の、賃金消費高の計算と記帳方法を理解する。 ○支払経費・月割経費・測定経費の消費高の計算について理解する。	
	第Ⅲ編 原価の部門別計算と 製品別計算 第1章 個別原価計算	6	○個別原価計算の方法と原価計算表の作成方法について理解する。 ○製造間接費の予定配賦の記帳方法を習得する。 ○仕損品・作業くずの処理法について理解する。	期 末 考 査
	第2章 原価の部門別計算	7	○部門費振替表(直接配賦法・相互配賦法)の作成方法について理解する。 ○製造部門費の予定配賦について理解し、計算方法を習得する。	
《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
《第1学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
二 学 期	第3章 総合原価計算 単純総合原価計算 等級別総合原価計算	9	○月末仕掛品原価の計算方法として、平均法・先入先出法を習得する。 ○単純総合原価計算の作成方法について理解する。 ○等級別総合原価計算の計算方法と記帳法について理解する。	中 間 考 査
	第3章 総合原価計算 組別総合原価計算 工程別総合原価計算	10	○組別総合原価計算の計算方法と記帳法について理解する。 ○工程別総合原価計算表の作成方法と計算方法について理解する。	
	第3章 総合原価計算 減損および仕損 副産物の評価	11	○減損・仕損の計算方法と処理方法について理解する。 ○副産物の評価方法と記帳法について理解する。	期 末 考 査
	第Ⅳ編 製品の完成・販売と決算 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算	12	○製品の完成・販売にともなう手続きと記帳について理解する。 ○工場元帳制における取引の記帳方法について理解する。 ○製造原価報告書の作成方法について理解する。	

《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
《第2学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
三 学 期	第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と 手続き 第2章 原価差異の原因別分析 【全商簿記実務検定】	1	○標準原価カードの内容について理解する。 ○原価差異の求め方について、金額の意味、差異の重要性を理解し、ボックスによる解法についても理解する。 ○標準原価の記帳方法であるパーシャルプランについて理解する。	学 年 末 考 査
	第3章 損益計算書の作成 第VI編 原価情報の活用 第1章 利益計画と直接原価計算	2	○損益計算書における標準原価差異の表示方法について理解する。 ○直接原価計算によって明示される貢献利益の意味を理解する。 ○直接原価データの利用方法として、損益分岐分析を理解する。	
	発展的な内容 第1章 原価の変動費・固定費の分解 第2章 安全余裕率の算定	3	○原価の変動費と固定費の分解について理解し、高低点法による計算方法を習得する。 ○安全余裕率の意味を理解し、計算方法を習得する。	
《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
《第3学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
《年間の学習状況の評価方法》 学習状況は、後に示した4観点から評価した1学期の成績・2学期の成績・3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価する。				

4 評価の観点と評価方法

学習状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点から評価する。具体的な評価基準は下表のとおりである。

評価の観点と趣旨		評価方法
関心・意欲・態度	製造業の原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得と理解を深めることに意欲的に取り組んでいるか。	授業態度・定期考査 課題提出
思考・判断・表現	原価計算のそれぞれの特徴と適用される生産形態について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、的確に表現する能力を身に付けているか。	授業への参加状況 定期考査・発表内容
技能	原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、製造業における諸活動を計数的に把握し、的確に活用・処理できているか。	授業への参加状況 定期考査・検定
知識・理解	原価計算の基本的な仕組みと工業簿記の基礎的・基本的な知識を理解しているか。	授業への参加状況 定期考査・検定

5 授業を受ける際の注意事項

- ・学習の到達度を測るため、原則として、全商簿記実務検定1級原価計算を受験する。
- ・学期ごとの定期考査の結果、30点に満たない生徒へは追指導を実施する。
- ・進んだ学習として、日商簿記検定2級の工業簿記分野を学習する場合がある。
- ・このシラバスは、あくまでも予定であり学校行事やその他の理由などにより変更等になる場合がある。